



図66 掘立柱建物SB004 南東から

最深部は幅1.5mで、東で1段高いテラス状の流路底を含めて3m程である。西岸は未確認だが、現地形から見て流路幅は最大6～7mであろう。満水時の水深は0.8m程になるが、通常の水量では、浅い流れであろう。下流部のIトレンチでは東岸から最深部までを確認した。流路は徐々に西へ移り、現状用水路まで25m程の範囲で推移した。谷から出た流路は、飛鳥寺域東辺に沿って北流するのは間違いない。

**流路SD010の性格** 流路SD010は、谷筋の積極的な利用にあたり、既存の谷川を整理・改修したものと位置づけられる。SD010の成立は7世紀中頃と推定するが、西岸を強く浸食し、平安時代後期には、現在の用水路の位置まで西遷し、当初の流路部分は水田化していた。

さて、前年度の報告では、SD010と書紀にいう「狂心渠」（たぶれごころのみぞ）との関連について言及した。SD010がBトレンチをさらに遡ることは明らかであるが、



図67 流路SD010 Iトレンチ南西から

上流部では人為的な開削の痕跡を確認するにはいたらなかった。また「石上山の石」に相当する天理産砂岩は、今回の調査でも出土していない。「狂心渠」か否かは、SD010がこの谷から出た、さらに下流部の様相が明かになるまで、判断を差し控えておきたい。

（長尾 充・土器：西口・瓦：花谷）

#### コラム：あすかふじわら ④

表5 1998年度の記者発表

日付	発表内容	関連調査
1998.4.15.	飛鳥池遺跡検出の梵鐘鋳造遺構について	第87次
4.23.	飛鳥池遺跡 飛鳥藤原第87次調査 現地説明会4.26. 見学者890名	第87次
9.4.	飛鳥藤原第84次調査出土木簡について（その3）	第84次
9.29.	飛鳥池遺跡出土の金・銀 特別公開10.7.～10.30. 於・調査部	第87次
10.15.	飛鳥池遺跡 飛鳥藤原第93次調査 現地説明会10.18. 見学者600名	第93次
12.22.	飛鳥池瓦窯の発見とその意義	第93次
1999.1.19.	飛鳥池遺跡出土の富本銭 特別公開1.25.～2.10. 於・調査部 見学者9300名	第93次
3.11.	吉備池廃寺の発掘調査 南面・西面廻廊および中門推定地 現地説明会3.13. 見学者400名	第95次

#### ◆記者発表の記録

本年度は、当調査部主催の報道記者発表が、計8回行われた。うち7回が飛鳥池遺跡の関連である。これで同遺跡の記者発表は、1997年の調査開始以来、通算13回となった。

現地説明会は、3回を開催して、見学者総数約1900名の盛況であった。

調査部の展示室では、飛鳥池遺跡出土の「金・銀」と「富本銭」の特別公開を行った。とりわけ、富本銭の展示期間の見学者は、一日平均700名を超え、13日間で通常入館者の5年分？を記録した。狭い基準資料展示室は大混雑。庶務室は問合せの電話への対応でおおわらわであった。（N）